

KVK 埋込型サーモスタット式シャワー 施工説明書

KF619(R/L)(B)

施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。
■この施工説明書はKF619L仕様のイラストで説明しています。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはならない「禁止」の内容です この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

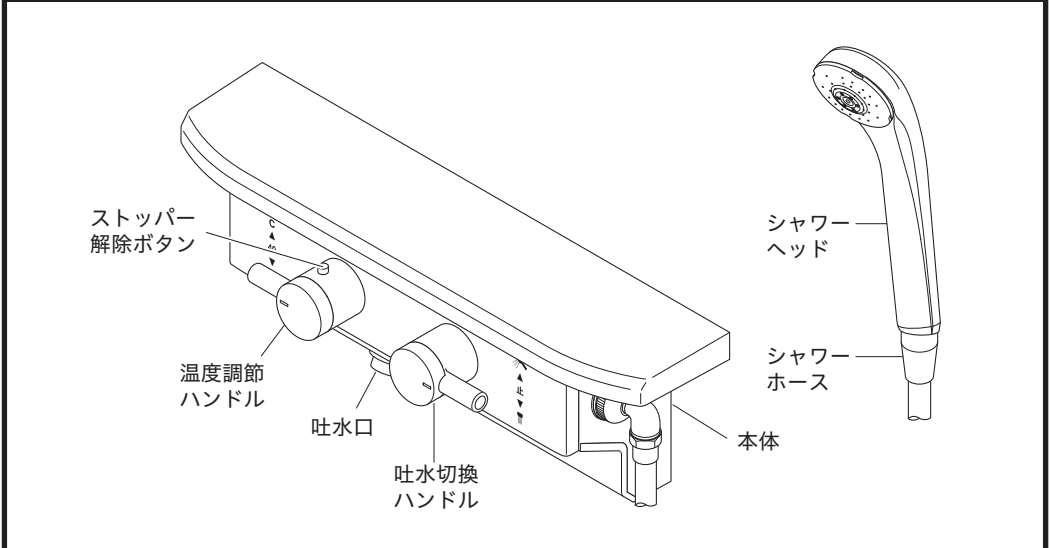
<p>湯水を逆に配管しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。必ず給水管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。</p>	<p>給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>加工および接合等の改造はしないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
<p>給湯に蒸気を使用しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>	<p>配管などの解氷のため、解氷機を使用する場合は、水栓には絶対に通電しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>通電すると水栓が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。</p> <p>禁止</p> <p>水抜き栓をいきなり開けると高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
<p>スチームルームおよび乾燥室にご使用の際はご相談ください。</p> <p>!</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>	<p>温度調節ハンドルの目盛が、吐水温度と合っているか確認してください。</p> <p>!</p> <p>取付現場の圧力状況により目盛通りの湯温にならず、やけどをするおそれがあります。</p>	<p>ストレーナの清掃は止水弁または元栓で必ず湯水を止めてから行ってください。また、操作の際は湯側止水栓が熱くないことを確認してください。</p> <p>!</p> <p>高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>

<p>注意</p> <p>器具に強い力や衝撃を与えないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>めっき部品はぶついたり落したりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。</p> <p>禁止</p> <p>めっきの表面が割れて、けがをすることがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。</p>	<p>凍結が予想される際は、配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。</p> <p>!</p> <p>水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

取り付け前に

- ① 使用水圧 (A=(給湯器の最低作動水圧)+(配管圧力損失))
 - (1) 瞬間給湯器との組み合わせ (設定条件 水温:25℃ 給湯器温度調節:高温 吐水温度:42℃ ハンドル全開) (比例制御式) 最低必要水圧: A+80.0KPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
 - (2) 貯湯式給湯器との組み合わせ (給湯・給水圧力) 最低必要水圧: A+50.0KPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
- ② 吐水切換ハンドルは全開で使用してください。給湯器が着火しない場合があります。
- ③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑥ 給湯器の給湯温度は、50℃~60℃に設定することをおすすめします。
- ⑦ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑨ 本製品は、改造(加工および接合等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑩ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

取り付け完成図と各部の名称



同梱部品 / 分解図

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。

<p>同梱部品</p> <ul style="list-style-type: none"> シャワーハンガー 1個 シャワーヘッド 1個 パッキン 1個 ホースフック付シャワーハンガー 1個 ハンガーキャップ 2個 タッピンねじ 4個 天板 1個 天板キャップL 1個 天板キャップR 1個 水栓固定ステー 1個 ねじ(トラスタッピン4x35) 4個 フィッシャープラグ(6x30) 4個 クイックファスナー 2個 止水栓 2個 メンテナンスカバー 1個 ねじ(M5x10) 9個 	<p>分解図</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------

1 キャップ	11 一時止水付切換弁	21 パッキン	31 メンテナンスカバー	41 クイックファスナー	51 シャワーハンガー
2 吐水切換ハンドル	12 サーモポデー	22 シャワーホース	32 表示パネル	42 水側銅管	52 フィッシャープラグ
3 切換固定ナット	13 切換ポデー	23 吐水口銅管ユニット	33 天板	43 湯側銅管	
4 温度調節ハンドル	14 接続ジョイント	24 リング	34 天板キャップR	44 水栓固定ステー	
5 リング	15 Lシャワー接続銅管	25 吐水口ジョイント	35 天板キャップL	45 ねじ	
6 温調固定ナット	16 シャワージョイント	26 吐水口リング	36 クリップ	46 Rシャワー接続銅管	
7 水栓カウンターL	17 パッキン	27 水切り	37 止水栓	47 シャワーヘッド	
8 ねじ	18 シートパッキン	28 パッキン	38 水抜き栓(逆止弁)	48 ホースフック付シャワーハンガー	
9 本体ステー	19 シャワー締付ナット	29 ストレーナ	39 止水弁	49 ハンガーキャップ	
10 サーモスタットカートリッジ	20 シャワーエルボ	30 整流器キャップ	40 ストレーナ	50 タッピンねじ	

取り付け手順 [イラストはL仕様で説明しています。R仕様の取り付け手順も同様です]

1 施工前の確認

施工される前に、配管の形状及び施工状態の確認をします。①又は②の条件を満たし、配管のピッチは160mm±1が取り付け条件となります。それ以外の条件では取り付けできません。
水栓取付面が、コンクリートでないで施工できません。ユニットバスには取り付けできません。

配管の形状 ①	配管の形状 ②		配管のピッチ
在来型	フランジ厚み8.5以下 φ49以下であること	アダプター出っぱり8.5以下 φ49以下	160mm±1 給湯・給水管

2 給水管内の清掃

配管工事後、必ず給湯・給水管内のゴミなどを取り除いてください。

3 水栓固定ステーの位置決め

右記の寸法にて水栓固定ステーの穴の位置決め(4か所)をします。

4 水栓固定ステーの取り付け (タイル・コンクリートへの取り付け)

① 水栓固定ステー穴の位置決め部分4か所にドリルで穴を開け、フィッシャープラグを打ち込みます。
② 水栓固定ステーをねじ(トラスタッピン4×35)で4か所壁面にしっかりと固定します。

5 止水栓の取り付け

① ソケットPJ½ねじ部にシールテープを4~5巻きします。
② 止水栓を3~5回転ねじ込みます。
【お願い】・湯側・水側とも同じねじ込み寸法(図1)にしてください。(シールテープの巻き数にて調節してください)・図2のように止水栓が垂直になるように取り付けてください。

6 本体の仮固定

① 本体の湯側・水側銅管を手前にずらします。
② 止水栓に干渉しないように、本体を水栓固定ステーに引っ掛けてねじ(ねじサイズM5×10)(2か所)で仮固定します。

5 ページ

7 本体と止水栓の接続

① 本体を左に寄せます。
② 湯側・水側銅管を止水栓に差し込み、本体を右に戻します。
③ クイックファスナーで固定します。

[メンテナンスカバー内]
湯側銅管 ②-1 差し込む
水側銅管 ②-1
クイックファスナー ③ 固定
止水栓
本体

8 本体の固定

① 本体上側のねじ(2か所)を本締めします。
② 下側をねじ(ねじサイズM5×10)(3か所)で固定します。その際、本体カバー下面が水平になるようにねじで締め付けてください。

[正面から見た図]
本体カバー
水平

9 天板・天板キャップ・メンテナンスカバーの取り付け

① 本体に天板を乗せ、ユニットバス壁面に押し当てるようにして、ねじ(ねじサイズM5×10・4か所)で固定します。
② 天板キャップ(左右2か所)を天板下面にはめます。
③ メンテナンスカバーをはめます。カバー上部をはめてからカバー下部の「≡」マーク(2か所)を押し「カチッ」と音がするまで確実にはめてください。

6 ページ

取り付け後の点検と清掃

通水確認

【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返して、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

ストレーナ清掃のお願い

止水栓と吐水口のストレーナにゴミ等がつかりますと、吐水量が減ったり、希望する湯温にならない場合があったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

➡ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

サーモスタットカートリッジの清掃方法

サーモスタットカートリッジにゴミ、水あか、汚れ等が付着しますと、吐水量が減ったり、温度調節がうまくできなくなったりしますので清掃してください。

【△警告】サーモスタットカートリッジの清掃は、止水弁または元栓で必ず湯水を止めてから行ってください。サーモスタットカートリッジをいきなりはずしますと、高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

- カバー下部のツメ(2か所)を本体の凹部からはずしてメンテナンスカバーを取りはずし、湯水の止水栓の止水弁(2か所)をしっかり締めて、湯水が出ないことを必ず確認してください。
- キャップ、温度調節ハンドル、温調固定ナットを取りはずします。
- サーモスタットカートリッジをはずします。
- サーモスタットカートリッジをブラシで水洗いします。

清掃後は上記の逆の順に組み立ててください。
メンテナンスカバーをはめる際は、取り付け手順 9 を参照してください。

【お願い】
・組み立て時、温調固定ナットはスパナ等で確実に締め付けてください。
・取り付け後は、温度調節ハンドルの目盛と吐水温度が合っていることを確認してからご使用ください。

④ 清掃
歯ブラシなど

サーモスタットカートリッジ
温調固定ナット
温度調節ハンドル
キャップ
凹部
ツメ(2か所)
メンテナンスカバー

①-3 確認
②-2 はずす
③ はずす
①-1 カバー下部のツメ(2か所)をはずす
②-1 はずす
①-2 締める

7 ページ

温度調節ハンドルの設定方法

工場出荷時に温度調節をしていますが、取付現場の圧力状況により目盛通りの湯温にならない場合があります。温度調節ハンドルの目盛が吐水温度とズれている場合、温度調節ハンドルをはめ直してください。

➡ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

流量の調節方法

➡ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度お確かめください。

現象	お調べいただくところ	処置	参照ページ及び項目
湯水が止まらない	吐水切換ハンドルは止水位置に合っていますか 止水直後シャワーヘッドから落ちる水滴は、シャワーヘッド内の残留水です。故障ではありません	吐水切換ハンドルを止水位置に合わせる	取扱説明書4ページ「吐水切換方法」
吐水量が少ない	止水弁は十分に開いていますか ストレーナにゴミ等がつかまっていませんか	止水弁を開ける ストレーナを清掃する	取扱説明書6ページ「流量の調節方法」 取扱説明書5ページ「ストレーナの清掃方法」
シャワーが弱い	ガス給湯器と組合せてご使用の場合、能力切換式のものでは適正能力にセットされていますか ストレーナは凍っていませんか	ガス給湯器の能力を適正能力にセットする ストレーナにぬるま湯をかける	—
高温しか出ない	水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	取扱説明書6ページ「流量の調節方法」
低温しか出ない	湯側止水弁は十分に開いていますか 給湯器の給湯温度を50℃~60℃に上げる	止水弁を開ける	取扱説明書6ページ「流量の調節方法」
温度調節がうまくできない	湯側・水側止水弁は十分に開いていますか 給湯器から十分な湯がきていますか ストレーナにゴミ等がつかまっていませんか 温度調節ハンドルの設定は合っていますか	止水弁で流量を調節する 給湯器の設定温度・作動を確認する ストレーナを清掃する 温度調節ハンドルの設定を確認する	取扱説明書6ページ「流量の調節方法」 取扱説明書5ページ「ストレーナの清掃方法」 取扱説明書6ページ「温度調節ハンドルの設定方法」
吐水が飛び散る	ストレーナにゴミ等がつかまっていませんか	ストレーナを清掃する	取扱説明書5ページ「ストレーナの清掃方法」
シャワーの吐水状態が不安定	給湯器の給湯温度を50℃~60℃に設定し、水側止水弁をしぼることで、改善される場合があります	—	—

【水栓本体内部のメンテナンスをする場合】
【△注意】修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

8 ページ

402718-05